

清洲城(清須城)(清須市一場)(清洲古城跡公園)

清洲城（きよすじょう）は、尾張国春日井郡清須（現在の愛知県清須市一場＝旧西春日井郡清洲町）にあった城。清須城とも表記される。尾張国の中心部に位置し、一時期尾張国の守護所として栄え、京鎌倉往還と伊勢街道が合流し中山道にも連絡する交通の要所として重視された。

応永 12 年（1405 年）、尾張・遠江・越前守護の管領斯波義重によって築城。または永和元年（1375 年）とも。当初は、尾張守護所である下津城の別郭として建てられたが、文明 8 年（1476 年）に守護代織田家の内紛により下津城が焼失し、文明 10 年（1478 年）に守護所が清須（＝清洲）に移転することで尾張国の中心地となった。一時期、「織田弾正忠家」の当主織田信秀が清須奉行として居城した以外は常に清洲織田氏（織田大和守家）の居城としてあり、尾張下四郡を支配する守護代織田家の本城として機能した。織田信秀が、古渡城に拠点に移すと守護代織田信友が入城したが、弘治元年（1555 年）織田信長と結んだ織田信光によって信友が殺害され、以降信長が那古野城から移って大改修を加えた後、本拠として居城した。信長は、この城から桶狭間の戦いに出陣するなど、約 10 年間清須を居城とした。1562 年（永禄 5 年）には信長と徳川家康との間で同盟がこの城で結ばれた（清洲同盟）。永禄 6 年（1563 年）には美濃国斎藤氏との戦に備えて小牧山城に移り、以後は番城となった。

天正 10 年（1582 年）の本能寺の変で信長がたおれると、清洲城にて清洲会議が行われ、城は次男・織田信雄が相続した。天正 14 年（1586 年）に信雄によって 2 重の堀の普請、大天守・小天守・書院などの造営が行われている。小田原征伐後の豊臣秀吉の国替え命令に信雄がさからい、除封され、豊臣秀次の所領に組み込まれた後、文禄 4 年（1595 年）には福島正則の居城となった。

慶長 5 年（1600 年）の関ヶ原の戦いの折には、東軍の後方拠点として利用され、戦後は安芸に転封した福島正則に代わり徳川家康の四男・松平忠吉が入るが、関ヶ原の戦傷がもとで病死すると慶長 12 年（1607 年）には家康の九男徳川義直が入城し、清洲藩の本拠となった。

慶長 14 年（1609 年）徳川家康によって、清須から名古屋への遷府が指令されると、慶長 15 年（1610 年）より清須城下町は名古屋城下に移転され（清洲越し）、清須城も名古屋城築城の際の資材として利用され、特に、名古屋城御深井丸西北隅櫓は清須城天守の資材を転用して作られたため「清須櫓」とも呼ばれる。慶長 18 年（1613 年）名古屋城の完成と城下町の移転が完了したことにより廃城となる。

Wikipedia による



清州城下図 (1600頃)

